

3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
C	<p>成果指標「小学校1年生が入門期となる4～5月の学校生活に適応できていると捉えている学校の割合」…【達成度c】 就学前教育プログラムに基づいた子どもの発達や学びの連続性を考慮した研究・研修を実施し、小学1年生の落ち着きが見られるなど着実に成果を上げてきていたが、令和2年3月の緊急事態宣言により小学校の休校措置が取られたことで学校現場が例年と違う対応を求められ、スタートカリキュラムの実施が難しかったことから、1年生の学校生活への適応状況を測ることができなかった。</p>

4 施策を構成する事務事業の検証

市民のニーズや市の関与の必要性が低下した事業、 投入コストの割に成果が低い事業、 施策への貢献度の低い事業はないか
なし
施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか
<p>(はなまき保幼一体研修事業) 就学前教育の充実を図るためには職員の保育・教育力の底上げが必要であり、私立園とも連携して充実した研修体制を構築する必要がある。 (幼児ことばの教室事業) 障がいの重複により指導の継続が望ましい子どもが増えていることから、保護者のニーズに対応しながら指導を継続する必要がある。</p>
新たに取り組むべき事業はないか
なし

5 施策の総合的な評価

課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園や幼稚園等の職員の資質の向上と保育・教育力の底上げを図るため、保育者育成指標をもとに、市の実態に即した研修体制を構築する必要がある。 ・ ことばの課題について、障がいの重複により指導の継続が望ましい子どもが増えていることから、保護者のニーズに対応しながら指導を継続するとともに、指導力の向上を図る必要がある。
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 私立園の意見をいただきながら保育者育成指標を適宜見直すとともに、保育者が主体的に学び、学びを保育に生かせるような研修体制の構築に向けた取り組みを進める。また、県の研究事業を活用した「幼児教育アドバイザー(仮称)」の配置及び活用方法を検討する。 ・ ことばの指導はマスクを外して行う場合もあるため、感染症対策に十分留意しながら指導を継続するとともに、保護者の就労等により通級が難しい子どもについては指導員が直接園に向いて指導を行うなど、就学前にことばの課題を解消できるよう支援する。また、専門研修等への参加により指導員の指導力向上を図る。

施策を構成する事務事業一覧

No	事務事業名	担当課	施策への貢献度		成果
	事業内容(活動実績)		対象	意図	
			直結度		
010	はなまき保幼一体研修事業費	こども課	一致	直結	B
	保育園・幼稚園・認定こども園職員を対象とした研修 (10回開催・延べ受講者139人)			A	
020	幼児ことばの教室事業費	こども課	間接・ 少数	直結	C
	幼児を対象としたことばの検査及び指導の実施 (ことばの指導実施幼児数48人)			B	
030	幼稚園教育環境充実事業費	こども課	間接・ 少数	間接・ 補完	-
	幼稚園就園奨励補助や私立幼稚園運営費補助、幼児教育無償化による給付費補助			C	
031	幼稚園教育環境充実事業費	こども課	間接・ 少数	間接・ 補完	-
	公立幼稚園の教育環境整備 (花巻幼稚園・土沢幼稚園への空気清浄機設置)			C	
040	保育所保育環境充実事業費	こども課	間接・ 少数	間接・ 補完	-
	公立保育園の施設環境整備 (成島保育園内装改修、遊具補修、湯口・太田・上瀬保育園耐震補強工事(石綿調査・設計・改修))			C	